西馬譯
國輝画
六編上
弓張月
六編下
錦昇堂梓
豊国画
へ13
3693
11
へ13
3693
12

へ13
3693
11

門へ13
3693
巻11

弓張月
春雪榮
第六編

上之巻

西馬譯

國輝画

錦昇堂
所蔵

爲朝物語保元平治盛衰記と始めあまたの書に載さるものゝ伊豆の大島へ配流せられ給ひ限とし此弓張月を其大既と素として鎮西に生立るを後讀物と紅紫り所々渡る事は補綴られ八全く著作堂の翁の妙案にて又珍しき奇談なれば能行はるゝ四十余年に今稱慶ぶべし。さて畫肆の需るゆゑ

西馬

より是に西圖を增文と略して去年より梓行ず既に當夏五の巻を出版せ美水事八郎大明神乃御関扉にいろ〳〵諸願利益のお蔭にや納京益寝と入の氣も草紙に接らぬ暑れ最中。新板はまだ出ぬゝト御催促と重陽に頃はきう。軒の燈籠や祇園會のどんちゃん騒ぐ陽氣に端居ぞの雜子の馬鹿に軒いと仰も好く常に倍せ配せ部數の捌くちと來地ゆく板元頻りに六七の巻が常夏夏神すのきゝの遠音と聞みうと内に居兼る童雅はさらぐ〳〵等く〳〵拯暑も厭ひず走廻り彫師画工へ附虐に逃脱思案の僕も土用掃の手傳ひ意ふ〳〵毫の採配れ乃疊汗を拭く〳〵えんや〳〵と三帖補誌あぐる事なり程

嘉永五壬子歳孟春新刻

東福庵西馬述

疱瘡鬼
御曹子の
武勇ふ怕るべく
八丈島
ありし山の御名
ある地へハ
未世立よらず
と誓詞を
鎮西八郎
源為朝
名さのこ
海乃達ゑ
たるねこ
為朝
七郎三郎
鬼夜叉

為朝の二男朝雅
足利義康の養子となり
後ハ足利太郎
義包と名乗
為朝の側室
鶴江
足利義康
近臣
梁田
時二郎
熊
大嶋の
三郎
忠重

五人ばやしつくき
烏朝
長女

長女

為朝

天波

長女

長女

鳥とも

烏朝

大波
長女
太郎丸
治郎丸

嘉永八乙卯春新彫目録

竹雀千代咲　西馬補案　國輝画圖

聖徳太子大和鏡　万亭應賀作　一壽齋國貞画

三鱗形鎌倉双帝　西馬作　國輝画

雲龍九郎偷盗傳　故人三馬遺稿　増補西馬案　画工一勇齋

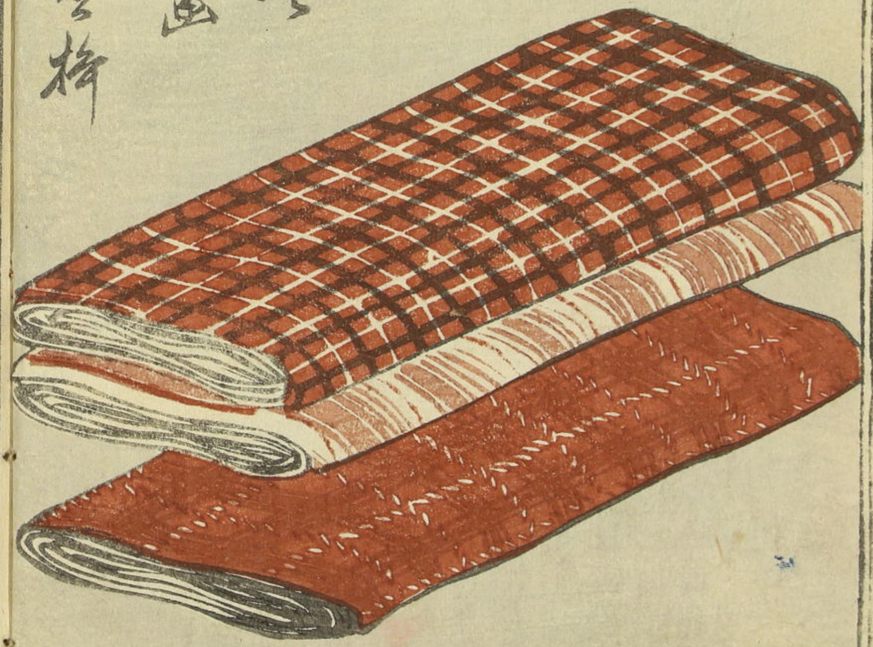
江戸地本草紙問屋　てりふり町　笑壽屋庄七版

弓張月
六編下
錦昇堂梓
豊国画
へ13
3693
12

門へ13
號3693
壱12

勇美
波理
津喜

六篇下絵
西馬作図
彩昇堂梅



七郎三郎

七郎三郎

為朝

長女
七郎三郎
大波
十三

烏朝
太郎九
次郎九
四郎五郎
十四

鳥刺
鬼夜叉

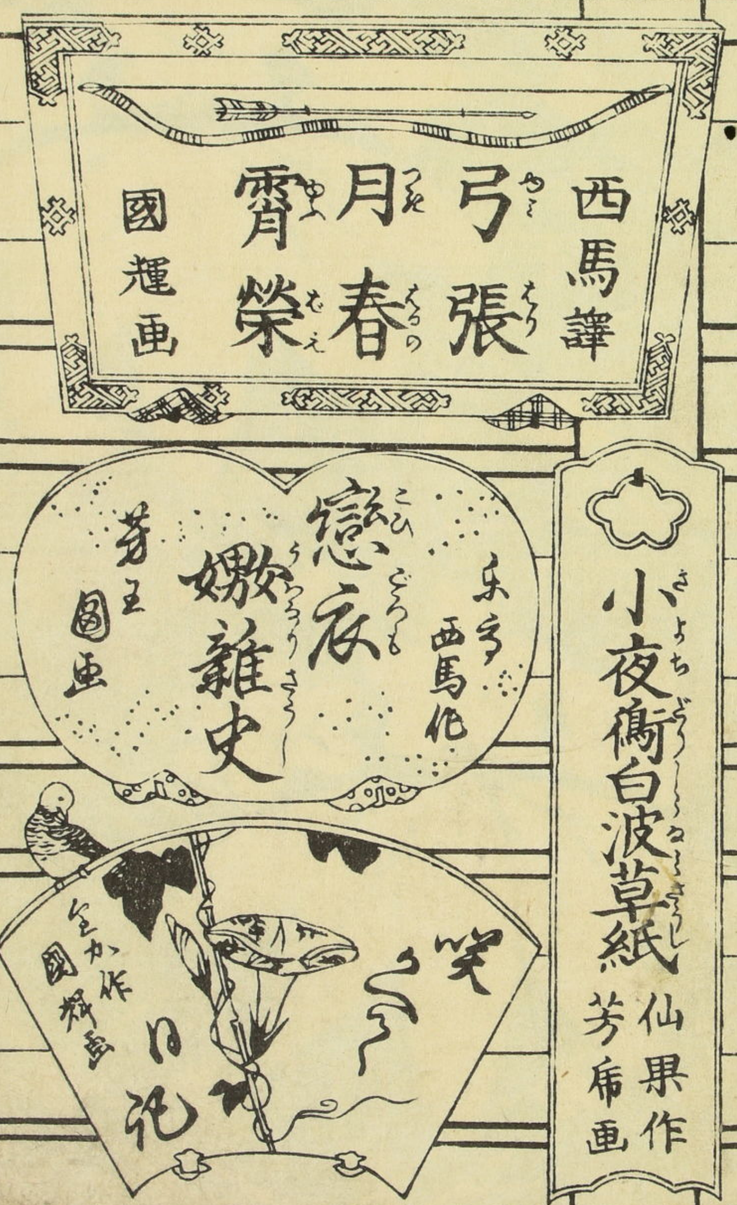
朝雅
鳥居

さくらえ
たゆうろう

たゆう丸

さくらえ
鬼夜叉

鳥朝
大夫恵童

錦昇堂新發行目録

東錦繪草紙問屋　照降町　恵比壽屋庄七梓